

# IYS通信

2024年11月発行

2024秋号

## インターユース堺事務局

堺市堺区南瓦町3番1号高層館6階  
ダイバーシティ推進部人権推進課内

Tel 072-228-7420

Fax 072-228-8070



夜寒の候、会員および関係者の皆さまには、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃は当会の事業に多大なる御理解、御支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

本年は、4年ぶりにIYSの団員募集を再開し、7月よりIYS第16期団員の6名で研修や交流活動に取り組んでまいりました。新型コロナウイルス感染症の影響によって団員活動すべてが久しぶりの取組であり、また今年度は「国内で行う国際交流・人権研修」をテーマに様々な学びを積み重ねてまいりました。

団員たちは8月に行われたコリアタウンフィールドワークをはじめ、協力団体である大阪YMCA様との留学生交流、外国にルーツのある子どもたちのイベント開催などを通じて青年の柔軟な発想で、人権や国際理解について学び、発信していく力がついてきたと感じています。また、多文化共生の観点でもいろいろなマイノリティについて考え、人権に関する視野も広がったと思います。

卒団生や経験者である青年が中心となって企画運営される社会貢献活動のヤングサンタ事業も、準備期間に入っております。IYSの魅力の一つに卒団生や関係者のつながりをおげることが出来ます。新旧のなかまがつながり、新たな内容や企画を提案しながら、新しいIYSの形を作っていくことを期待しています。

これから、さらに寒い季節に入ります。皆さまにおかれましては、くれぐれもご自愛いただき、実りある日々を過ごされますことを心から願っております。

## 2024年度ヤングサンタ

ヤングサンタ実行委員会では、スタッフの確保や家庭募集など、今年度の活動が楽しく、充実したものになるよう話し合いを進めています。

昨年度の開催方法を参考に、さらに今の自分たちができることは何なのか考えています。コロナで止まった3年間の活動で今までの取組がなかなか継承できていない課題がありますが、今年度の第16期団員も合流し、新しく加わったメンバーの柔軟な発想で新しいヤングサンタを作ってくれることを期待しております。

低年齢層の子どもたちに、クリスマスを楽しんでもらい、夢を与える大切な社会貢献活動です。青年たちの活動にご期待いただき、ご支援のほど、よろしくお願いたします。



サンタさんは各家庭の希望に合わせ、お宅訪問の際に一緒に「何か」を作ったり、歌を歌ったりする予定です。また、絵本の読み聞かせや激励メッセージの読み上げなども行うこともできます。



ヤングサンタ実行委員会では、子どもたちが「サンタさんは普段の自分のがんばりを実は見ているよ」と思ってもらえるようにメダルやカードにして渡すなどの具体案が提案されました。私たちができることを明確にし、これからの家庭説明会でスタッフとご家庭がつながり、当日のことを提案・検討していけたらと思います。

11月2日(土)に行われたメンバー顔合わせでは、皆さん緊張されていましたが、同じ目的をもってボランティア活動に参加したいという方々ばかりでしたので、自分たちで楽しみながら活動を考えてくれることと思います。世代も立場もいろいろですが、みんなで横のつながりをつくっていきとうれしいですね。

(写真は昨年度の活動風景です)



## 2024 年度の活動報告

7月末から始まった今年度のIYSの活動も後半の啓発活動や社会貢献活動に入ってきています。IIYS 通信夏号でお伝えした「世界の人権の流れ」、「国際関係団体について」の研修後の団員活動について報告します。

8月7日(水)に大阪生野コリアタウンフィールドワークに参加してきました。韓国・朝鮮の文化を体験しながら学び、コリアタウンの歴史やそこに暮らす人の営みを感じ取りました。

【第16期団員の感想から】

・韓国・朝鮮の伝統文化を学んで、感じたことは日本の文化に類似しているところが多かったところです。例えばハングル文字では約束がヤクソツと言われていたり、日本語のお腹がペコペコの「ペコペコ」の由来は朝鮮語の「ペゴッパ」からきていたり、「うるうる」は朝鮮語の「ウルダ」からきていたりといくつかの日本語の由来になっていて、日本と近い関係性があるのだなと思いました。



コリア NGO センターにて



生野コリアタウンを散策

・一番大切なことは、お互いの文化や考え方など、人それぞれのバックグラウンドなどを尊重することだと思います。そのためには日本にいてもいろいろな国の文化などを学ぶ事は大切であると思いました。しっかり他国の文化を学ぶ上で、今回のように言語を学んだり、民族楽器や遊びを学ぶことで楽しく学べたり、似ているところもあるなと肌で感じながらすると、親近感が湧いてもっとその国のことについて勉強しようかと思ったりするのではないかなと思いました。

IYSの活動目的には「人権意識と国際感覚を身に付けた青年の育成」にあります。ここでいう「国際感覚」には「海外について詳しい」ということではなく、「国」や「民族」、「人種」という枠を超え、「一人の人」として対することができるとともに「国」や「地域」、「民族」ごとに異なる文化が存在する意義も理解できる、多様性を感性として身につけることにあります。多文化共生という言葉が強調される昨今ですが、ともに暮らし、ともに生きるためにどうすればいいか、考え続ける人になってほしいです。



大阪 YMCA 日本語学校での交流

国際感覚と人権意識の醸成のために、IYSが大切にしたいのは「体験」です。これまで行ってきたIYSの海外派遣では、海外の地、それも観光地化されていないようなところへ訪問し、現地で自分たちが、圧倒的なマイノリティであることを感じるようになりました。派遣先の当事者から学ぶことも多く、事前研修で積み重ねた学びをもとに個人テーマが深まっていきました。実際に現地に行くと、それまでに学んだことや調べたことは、ほんのわずかの部分でしかないことに気づかされます。青年期にできるその体験こそが重要であると考えます。

「聞くだけなら、忘れてしまうだろう。」  
「見たら、覚えるだろう。」  
「行動すれば、学ぶだろう。」  
「自ら気付けば、使うだろう。」



堺市立平和と人権資料館の見学



人は、「聞く」だけでは、やがては忘れてしまいます。「見る」と印象には残りますが、それだけでは他人事で終わってしまいます。だからこそ、自ら「行動する」ことによって得られた学びを大切にして、その時の新たな「気づき」が、さらにその後の自らの行動に反映され、結果的には相手ともお互いを尊重しあえる良好な関係を築くことができます。

2016年モンゴル国ホスタイ山脈国立公園ゲルキャンプにて

私たちIYSが昔から掲げてきた活動の基本理念は、交流活動の形をかえても生き続けます。

今年度の第16期団員は、国内でできる国際交流で日本で住んでおられる外国にルーツのある方々とつながることで、私たちが想像できなかった思いや苦勞も学ぶことができました。

相手の気持ちを考え、学び続け、つながり続けることの大切さを団員も感じていたようです。

2025年度以降の活動についても、国際感覚・人権意識を基礎として国内における海外の方の言葉を聴き、つながりを作っていけるような事業計画を提案させていただきます。

本年度と同様にIYSの活動になにとぞ御理解・御協力のほど、よろしくお願いいたします。



外国にルーツのある子どもたちとのイベント

# IYS 出前講座 先輩団員の活躍

前身であるIYYから含めると400人を超える「団員経験者」がいるIYSですが、今年度は、再開した事業のご協力をお願いするため、事務局から連絡をさせていただきました。小学校での出前講座で、IYSでの活動経験を語ってもらうためです。

今回、連絡をさせていただいたのはIYS第9期の齋藤さん（戸田さん）です。

齋藤さんは、団員活動時、オーストラリアに派遣され、先住民のアボリジナルについて学びを深めてこられました。卒団後はそのご経験と看護師や社会福祉士としての資格を生かして堺市の地域包括支援センターでご勤務をされています。



第9期団員（左から2番目が齋藤さん）

10月中旬、堺市立日置荘小学校からのご依頼で、5年生の総合的な学習の時間、キャリア教育の授業現場にお邪魔してきました。5年生のみなさんは、授業で1年間通じて地域の方や関係者の方から話を聞き、職業について知りながら将来のなりたい自分について考える学習をしています。



授業風景①

今回の出前講座の中で、齋藤さんはオーストラリアで出会った様々な分野で輝く人たちの話をされていました。オーストラリアでは、イギリスの植民地時代の影響から、白豪主義と呼ばれる政策で多くの先住民が抑圧されてきました。授業では、「盗まれた世代」とよばれるアボリジナルの方々が、自信や誇り、自分のアイデンティティをスポーツや芸術といった様々な方法で取り戻していく姿に感銘を受けたことが語られました。自分のおかれた事実を自分なり

の方法で、発信していくこと、また、なかまとつながることが大切だと気づかされました。

海外での経験を活かし、現在は堺の福祉分野で活躍されている齋藤さん。高齢者に優しいまちづくりへの挑戦は続いていきます。

授業中に交わされるやり取りや子どもたちの反応から、やはり現場で実際に当事者と会って話を聴くことに大きな意味があると感じました。これはIYSの基本的精神と同じです。

授業後も齋藤さんは、「IYSに参加して人生が大きく変わった」と自信をもって話されていたのが印象的でした。IYSの活動が、国際的な面に関わらず、様々な仕事や生き方につながっているのが、事業の財産だと感じました。『思い立ったらやってみる』が、青年の原動力です。キャリア教育を学んでいる子どもたちにも、出前講座がいろいろな分野で羽ばたいていくきっかけづくりになっていれればいいです。



授業風景②



2013年度 第9期団員  
派遣先のオーストラリアでの交流